

今回、同額の解雇手當を支給するや否や』と確めたるに、工場長は『今回の手當額は只今回の職員に限り支給するものにて、今後の解雇者に對しては果して今回、同額の手當を支給するか、又不然に支給せざるかも圖らず要するに時勢に應じて處理する積りなり』との回答なりし爲、斯かる謹然たる回答にては到底満足する能はず、職工は今後の不安を此際除去すべく、職員共に内外相應じて一齊に立上つた。而して『解雇手當最低ハヶ月分の支給、就業年限向後三年間の保證』を要求した。

十七日會社は其要求を拒絶した。そこで何時こはなしに、ヤスカロー、フルカローといふ在業者に附て了つた。

此開発正會は會長高橋治直、副會長月原篤治氏を始め隨分の努力をした。

廿八日旭浦座で職工大會を開いて日本労働總同盟大阪聯合會に加盟を決議した。直に大阪聯合會からは野田徳太、山内義吉、金正義吉氏が急行した。

然るに突如廣島國粹會は調停を申込んだ。然るに六月三日爭議團の結束を切崩し得す争議團に膝を屈し會社發表の別に三十日分を支給することとなり、國粹會及び會長外七ヶ町村長會下に旬刊に渡つた争議は有利に解決した。

因島工場の爭議

廣島縣御調郡因島大阪鐵工所分場では先に提出保留になつて居つた解雇手當が、七月十二日に發表された。

一ヶ月未滿者十五日分乃至一十日分

一ヶ月以上五ヶ月以下は一ヶ月に對し十日分を增給

五ヶ月以上は一ヶ月に對し一日分を増給

此の制定額は其日の朝、既に職工の口より職工全般に漏れ聞えて居たて發表に先だら午前十時頃杉原因島労働組合長、小國糸理事長は、事務所にて坂戸主任に面會を求め、工場就業員全體を代表して、發表額の餘りに少額なるを難詰したが、坂戸氏は『大阪本社よりの命令なれば如何ともなり難き由を回答した。

七月十三日幹部が午前五時半より、一齊活動を開始したる爲就業員は、事業に就かずして七時に全員は場内の船渠下に集合した。夫より直に大會の形式にて解雇手當の件を語りたるに、滿場一致にて會社發表の手當額に對し、其少額なるに不満足の意を表明したから、茲に會社に對し交渉を開始すべく、委員として杉原茂代美、小國泰、澤田徳松、高岡忠一、磯谷政吉五氏を推し、正式に會